

の中をお目にかけても宜しい、ホントに嬉れしいなどの感じは少しも起らないのであります、なでならば之丈育兒に丹精して、之丈の結果の現はれますのは、理の當然と信じて居ります、只恐れます、このほめられる言葉がはしなく子供の耳に入り、そして自負の心の種となりはしまいか「或は満心を引き起しはせぬかしらんと、人がすべて向上しますのは、大抵自分が心に未だ及ばぬ、私はどうしても出来ない」と思つて、今少し出来る様に、せめてあの人位になどと色々一心不乱に我が又ばぬ所を自覺して居る時が、進歩の最も甚しい時の様に思はれます、子供でも矢張そうであらうと存じまして、少しでも外からアナタはよく出来るなど、言はれる時に子供心の正直にすぐ眞に受けて、自分はよく出来るのかなど、思ひましたならば、其處から進歩が止まるかと恐れます、どうか子供が幾らよく出来ましても、その出来る事を子供に知らさない様にして、いつも及ばぬ出来ないので、自分はなせコー出来ないだらう位の元氣で勉強させたいと思ふのであります、ダカラ私は

子供が少し位成績のよろしい場合が御座います、餘りほめはいたしません、マ一宜かつたが、アナタは自分がよく出来ると思ふと大變な間違、只外な人が餘りよく出来なかつた爲に、アナタが少しよかつた計りでありますぞ、また外によく出来る人は澤山あります、コレカラがほんとに勉強する時ですよ、之れからが大切ですよ、それに一つは先生なり、父さんなりのおかけですよ、自分をえらいなど、思つたら大間違、アナタが少しでも出来がよかつたといへば、先生や父様のお骨折ですから、之からもよく仰を守て勉強なさい、私の兒に對するほめ言葉は此位な度で御座います。」

天竺牡丹の栽培法

千葉 晚香氏 談

近頃一般の家庭で、園藝植物を栽培すること流行となつた、中にもダリヤ、即ち天竺牡丹の栽培は極めて容易で單に植付けたいだけでも相應に花が

見られるが尙ほ多少注意して栽培したならば、一層立派な花を見ることが出来る——、今其栽培法の概要を記して見やう

●●●●●
▲異り物の多い花

ダリヤは四月頃植付けると、五月下旬から十一月初旬まで絶えず開花して居る至極経済的な花である、而して其色彩と花形の變化に富んで居る事は、恐くこの草花の右に出づるものは無からう、約七八百以上の異り物があるといふ事である、私も是れまで五千株以上の實生を拵へたが、其中で際立つて色合の異つたものは、四五百種あつた、勿論新種の優等品は僅に十數種位しか出来なかつたが、今日流行して居るピオニイ咲なるものも、今尙ほ多少残つて居る、實生で優物を得ると云ふことは、却々難しい事である聞く所に據れば外國の園藝家は、此ダリヤ許りを、數十町歩乃至數百町歩の土地に栽培し、新種の作成に努めて居ると云ふ事であるが扱て新種を拵へると云ふ段になると、前にも述べた如く勞力と費用とが多くなるから、爰には先づ家庭の娛樂として、半坪位の地面又は鉢植として素人の手で出来

る、極く簡易な栽培法と實生法の一端だけを述べて置く

●●●●●
▲植付の方法

地植で栽培する場合には四月から五月の間に、前年から貯へて置いた球根を、一旦地植として、而して十五日か二十日位経過した新芽が一寸か二寸五分位に伸びた所で、更に掘越して芽を幾つにも分離する、此場合に餘程注意しなければ肝腎の芽を缺くことがある、球根は傷けても害がないけれど、芽は特に大切にしなければならぬ、若し此際芽が二寸以上も伸びて居た場合には動もすると折れることがあるから、先づ其芽を一寸止まり位に切斷して置いても差支がない、さうして之を植ゑるには深さ一尺二寸乃至一尺七寸位の穴を掘り、其下層に牛馬糞を、厚さ二三寸位土に混和して入れて置き、尙ほ其上へ二寸許も土を入れて植付けるのである、而して土は中高に盛上る位がよい、又一法は貯藏して置いた球根を溫室内で芽を吹かし、其芽を分離せしめて後前に述べたやうな方法で植付けるのである、鉢植と爲すには、別に難しい手数はいらぬ、土は普通のも

のでよいが、然し出来る事なら牛馬糞の古くなつたものと、畑土と砂土とを等分に混和した培養土が出来ればお誂向である、尤も之が面倒なら畑土丈でも差支がない、而して鉢は成るべく大きい方が適當で徑七八寸以上一尺二寸止りで底の深いものが可い

▲摘芽の必要　ダリヤは徒らに丈高く伸び過ぎる傾きがあるから、鉢植に仕立てるには一尺位の所で二三度芽を摘む必要がある、さうすれば鉢相當の丈に仕立られ、盆栽としても随分美麗なものが出て来る、若し其手数省いた場合には、無暗に伸び過ぎて、五六尺以上にもなり、體裁の悪い不恰好なものが出て来る、尤も芽を摘めば、幾分か花が遅くなるから其心算で少し早めに植込をして置かねばならぬ

▲害虫の驅除　植込んでから間もなく芽が萌出づる場合に、動もすると俗に夜盗蟲と云ふ、恐い害虫が發生し新芽を容赦なく喰ひ荒すものであるから、其芽が出て七八寸位に育つた頃には、折々注意して根際の處を見て、この蟲を見付け次第に殺

さなければ不可ぬ、但しこの蟲の性質は、夜間葉の上に出て、柔かな新芽を喰ふのであるから、日没後一時間位経たぬ燈火を點じて葉の表裏を能く注視すれば必ず發見することが出来る

▲肥料の供給　肥料分さへ絶やさなければ、花は絶えず咲いて美事である、初め芽が出てから七八寸の丈になつた所で、折々薄肥を與へるが可い、而して肥料は人糞でも、又油粕大豆の養液等でも少し古く置いたものが良い初めから濃厚な肥料を施せば却て餘り強過ぎて宜しくない漸次濃くして與へる方針が良いのである

▲挿木繁殖も出来る　根分けの外に挿木繁殖も出来る、挿木法は普通の方法で可い、鋭利な刃物で俗に云ふ節の所、葉腋の下部から切つて挿すと速かにつく、而して季節に入梅後夏季の土用前が最も好時季で、成るべく早く着手する程、球根が大きく出来る、秋季にも挿木が出来る、けれど川腎の球が出来ないから、徒勞である、よし出来た所で役にたゝぬものであるから、其心算で挿木をしなければならぬ

▲挿木中の管理 挿木を行つた後は乾燥させぬ工夫をしなければならぬ地面へ挿木をした時は其挿

木の上都を藁で薄く掩ひ、鉢又は箱やうのものに

挿木をした場合には、隔日若くは三日目位に水を

與へ而して過度に乾燥するのを防ぐ爲め成るべく

日蔭に置か、或は午前中は日が當り、午後は日

蔭になる處に置いて、而して少し根が付き初めた

頃に、日當りの可い處へ移し、水を絶えぬやう

に爲なければならぬ、又挿木の用土は、砂土七分

畑土三分位を混和したものが適當で

▲實生法 之れは三月中旬から四五月中に行ふの

であるが、ダリヤの種子は牛蒡種のやうな色合で

而して扁平な長いものである、種を播くには水抜

のよい一定の土を撰み、種を蒔いてから一週間乃

至十二三日間で發芽する、發芽當時は度々灌水し

て、本葉が少々出初めた所で移植する、尤も其移

植土は云ふまでもなく肥沃なる土を撰み、二三寸

乃至四五寸の間を隔て、一本宛植付ける植付け當

時は頻繁に水を與ふれば成長を早め、而して以後

一週間も経過すれば、メキ／＼と成長する、此時

は灌水する代りに、極く稀薄な水肥を一週一回位

與へると、忽ち迅速に成長して株と株との間が、

狭くなつた時には、又々移植していよ／＼本植付

に適當する迄の成育を遂げた上、一尺内外の間隔を

付け植付をする、此場合に土中に穴を深く穿ち、

其下へ牛馬糞を入れ、其上へ土を盛つて植付る尤

も肥沃なる土地であれば、植付後に肥料を施して

も差支ない

▲秋季に刈取る方法 ダリヤは六七月初盛んに開

花して、一旦花は咲かぬやうになり、更に秋に入

つて咲出す事がある、之れは養分の不足に據るの

であるから、肥料さへ十分與へれば、花は不斷咲

いて居て見事に觀賞することが出来る、而して前

にも云つた通り、莖や幹が丈長く伸び花の付き方

も少なくなることがあるから、之を矯正する爲め

七月下旬から八月初旬に適宜に刈取り、十分施肥

を施したならば新に出る芽に蓄を有ら續き開花す

るものである、斯くて霜の降る頃までは、飽かぬ

眺めを増すのである
▲切花としたら水揚 實驗に依ればダリヤは前日

の夕方切つて切口を炭火で焼き、一夜の間水中に浸し置くか、左もなくば午前三時から四時の間に切取り、水に浸けたものは、四五日乃至一週間位保つて居る、然し其他の時に切取つたものは、忽ち凋落するのが普通である又切口を焼く代りに、之を切取つた時直に其取口をアルコールに漸時浸せば能く水揚して日数を保つことが請合である

金魚の飼ひ方

都も鄙も艶陽の空長閑になり行き金魚の美しき姿を水に浮かせて家庭の目を娛ましむる季節も真近になりぬ金魚の中には一尾百圓、二百圓と云ふ高價のものあれど是等は姑く別とし縁日杯にて買ひ來る金魚の極手輕なる飼養法に就て農科大學委託試験場秋山吉五郎氏の談を掲ぐべし

▲器物 金魚は極弱いもの、様と思つて居る人もありますけれど夫程弱いものではなく夫を殺すのは全く注意が足りないからで御座ります器物は桶でも

箱でも亦硝子の器でも瀬戸を引いた鹽でも構いませんが座敷に置くには硝子のツンドウが綺麗でもあり一番で御座ります。詰り器物は相當の場所さへあれば宜しいので其大きは一尺の硝子のツンドウには五匁位のもの(圓く肥えたもので頭より尾元まで一寸五分、總體で二寸五分より三寸位までなら五六尾、十匁位なら二尾と云ふ所ではより多くなる)狹くなつて好くありません

▲食餌 餌を遣るのは午後より午前中が好いので最も好いのは氣分の最も好い十時頃で一回遣れば澤山で御座ります餌は子子、沙蠶、蚯蚓等一定しては居りません、詰り食ふ物なら何でも好いので駄でも結構です子子なら五匁位のものには一回に五匹位が適當で御座りまして十匁位のものなら八九匹と云ふ割合で御座りまして、餌を五分間位入れて置いて喰ふ氣が無ければ直ぐ揚げて了ひ其日一日は與へなくても差支はありますので斯ういふ時は遣らない方は好いのです能く駄などを入れ放しにして水が白くなつて居る事がありますアレは極好くないのです餌は喰ふても喰はないで